

大ナゴヤ大学学長が経験する「社会起業」とは？

前回は、大ナゴヤ大学の活動についての説明とコラムの目的についてお話ししましたが「面白そう」と興味を持っていただく一方で「無料で授業を提供するなんて収益構造はどうなっているのだろうか？」という疑問も生まれたのではないのでしょうか？ 実際によくの方から同様の質問や心配をいただくことも少なくありません。

学長である私自身、構想を聞いた当初はこのようなモデルが成立するとは思いませんでした。しかし当時すでに順調な運営を行って

独特な地域資源発揮

② いる優れた雇用を確保し、代表者は上學が開校。京都の貴重な観
先行モデル 場企業と変わらぬ所得を得 光文化資源を維持・発見す
があったの るまでになっていました。 史、武家文化、芸文こころナ
です。それ 「シブヤ」といえば最先 スタートしました。若者文 田舎、両方の性質を併せ持
がNPO法 端の情報発信都市。最新の 化の発信地として、企業か 一の食文化、結婚式の独
の協賛 特定な風習など貴重な資源は 【NPO法人大ナゴヤ・
を募り参 たくさんあり、参加者が楽 ユニバーシティ・ネット
加者向け しみながらそれら地元の魅 ワーク学長・理事長 加藤
のCSR 力を発見・発信していく 健康」

「学ぶ」キーワードにつなぐ

人「シブヤ大学」で 登録数が1万6千人 1万人以上、行政からの生 歴史的魅力を備えた場所も 協賛授業の実施、また授 業を通じたオリジナル商品 という形で横串につなげて や。伝統文化や貴重な観光 資源の宝庫である京都。 これらと比較し「ナゴヤリマシ ンテンツが少ない。成功す 先行す ルタイムのスタッフ2人の は京都に「京都カラスマ大 数いただきました。

モデルとなる「シブヤ大学」

大ナゴヤ大学の姉妹校ネットワーク
*印は2010年度開校予定



DAI-NAGOYA UNIVERSITY NETWORK

